



武漢の幹線道路



中国のスマートフォン アプリ事情

インテック武漢 総経理
坂本 一幸

ニーハオ、インテック武漢の坂本です。中国のある統計では、2015年の中国国内スマートフォン普及率は44%だそうです。2014年末の総人口は約13.7億人です。約6億人のユーザーがいることになっています。これだけ多くのユーザーがいるわけですから、生活に密着した便利なアプリが数多く提供されるようになりました。

変わる交通事情

中国の各都市では2011年から5カ年計画でスマートシティ化が進められています。武漢市でも様々なインフラ整備が行われ、高速道路やバイパス道路の拡張、長江を跨ぐ橋やトンネルの増設、地下鉄や鉄道の開通など、特に交通インフラの整備が進んでいます。ITS（高度道路交通システム）が導入され、

ETCによる橋の通行への課金や交差点・道路に設置したカメラやセンサーによる交通情報の管理も行われるようになりました。ナンバープレートに数字に応じた通行規制や電子掲示板への渋滞情報の表示、ラジオでの交通情報の提供などによって、慢性的な交通渋滞も徐々に緩和されてきたように感じます。

一方、交通に関するスマホ用アプリも様々なものが現れてきました。渋滞情報やナビ情報を提供する地図アプリ、位置情報で付近にいるタクシーを呼び出すタクシー用アプリ、また、路線バス用には路線情報や運行状況などをリアルタイムに見ることができるアプリもあります。最近では通勤に地下鉄を利用する社員も増えてきましたが、インテック武漢では多くの社員が路線バスを利用しています。雨の日など、いつ来るかわからないバスを待ち続けなければならぬ場合もありましたので、これは路線バスの利用者にとって、とても有益なアプリです。

生活に密着した銀行のサービス

日本で最近話題になっている中国人観光客の爆買い。これに二役買っ

ているのが銀聯カードです。各銀行が発行しているキャッシュカードやクレジットカードのことで、日本でも使用できるようになりました。キャッシュカードはレストランやスーパーマーケットなどのPOS端末で即時決済ができるデビットカード機能を持ち、24時間利用できます。少し危険な感じはしますが、カード使用後は銀行から利用日時や利用額の情報がメッセージとしてすぐに携帯電話に送られてきますので、その場内容が確認できます。

銀行が提供する専用アプリでは、残額や利用履歴の照会、他口座への振込などの基本機能のほかにも、光熱費等の支払い、航空券・ホテル・映画・公演などの予約購入、ネットショッピング、さらには交通違反金の支払いまで、生活に関わる便利なアプリが揃っています。

中国では、もの凄い勢いで社会インフラが整備され、それに伴い様々なサービスのIT化が急速に進んでいると実感します。インテック武漢でも日本と連携してモバイルアプリの開発に着手しました。今後、より魅力あるモバイルアプリの開発に取り組んでいくことにしています。